

『窓ぎわのトットちゃん』（文・黒柳徹子／絵・いわさきちひろ）の 続編が10月3日に刊行されました

1981年に刊行された『窓ぎわのトットちゃん』（講談社）は、黒柳徹子（ちひろ美術館館長）がトモ工学園での思い出をいきいきとつづった自伝的物語です。トットちゃんの物語はいわさきちひろの没後に書かれたものですが、黒柳の希望でちひろの絵が使われました。世界 20 以上の言語で翻訳もされ、時代も国境も超えたロングセラーとして、今もお世代を超えて読み継がれています。

単行本刊行から42年の月日を経て、ついに『続 窓ぎわのトットちゃん』（講談社）がこの秋刊行されます。続編では、トットちゃんが青森に疎開してから、音楽学校を卒業してNHKの専属女優になり、ニューヨークに留学するまでの日々がつづられています。

続編刊行にあわせ、ちひろ美術館（東京・安曇野）では下記の取り組みを行います。世界中で愛されるトットちゃんの世界を、この機会にちひろ美術館でお楽しみください。

続編の表紙作品「立てひざの少年」を特別展示

『窓ぎわのトットちゃん』に続き、『続 窓ぎわのトットちゃん』でも、黒柳の希望により、いわさきちひろの絵が使われました。続編の表紙を飾る作品「立てひざの少年」を、ちひろ美術館（東京・安曇野）ではピエゾグラフィ*で展示します。『窓ぎわのトットちゃん』関連の書籍が読めるコーナーをつくり、黒柳がちひろの作品の魅力について語る映像も上映します。

*ピエゾグラフィ…ピエゾグラフィとは、耐光性のある微小インクドットによる精巧な画像表現で、ちひろの繊細な水彩画を高度に再現しています。

○展示中～11月30日 安曇野ちひろ美術館 ○10月7日～2024年1月14日 ちひろ美術館・東京



『窓ぎわのトットちゃん』
1981年刊行



『続 窓ぎわのトットちゃん』2023年刊行

トモ工学園の電車の教室が再現された「トットちゃん広場」

松川村・安曇野ちひろ公園

安曇野ちひろ美術館に隣接する安曇野ちひろ公園（松川村営）は、北アルプスの山並みを背にした緑豊かな公園です（53,500㎡）。園内には『窓ぎわのトットちゃん』の世界が広がる「トットちゃん広場」や、収穫体験や季節の行事体験ができる農園もあります。



電車の図書室



トットちゃん広場（安曇野ちひろ公園）

トットちゃん広場

「トットちゃん広場」には、トットちゃんが授業を受けていたトモ工学園の世界を再現する電車の教室と、電車のなかでトットちゃんの物語や絵本などを閲覧できる図書室があります。また、園内はトットちゃんのお話をたどりながら楽しく散策できるようになっています。

安曇野ちひろ美術館でも トットちゃんの世界を体験

安曇野ちひろ美術館内にある「子どもの展示室（トットちゃんの部屋）」には電車の教室の一部が再現されており、トットちゃんがトモ工学園で学んだ時代と同じ雰囲気を感じることができます。



子どもの展示室（トットちゃんの部屋）

【美術館基本情報】

ちひろ美術館・東京

絵本画家いわさきちひろが最後の22年間を過ごした自宅兼アトリエ跡に建つ。世界初の絵本専門美術館として1977年開館。

●所在地：〒177-0042 東京都練馬区下石神井 4-7-2 ●開館時間：10:00～17:00（入館は16:30まで） ●休館日：月曜日（祝休日は開館、翌平日休館）、臨時休館あり ●入館料：大人1000円、18歳以下・高校生以下無料

<お問い合わせ> ちひろ美術館・東京（広報担当：入口・松方・原島） E-mail: publicity@chihiro.or.jp
安曇野ちひろ美術館（広報担当：田邊・山本・松本） E-mail: apublicity@chihiro.or.jp

安曇野ちひろ美術館

ちひろ美術館・東京開館20周年の1997年に開館。ちひろの両親が戦後、開拓農民として暮らしつづけたゆかりの地である松川村にある。

●所在地：〒339-8501 長野県北安曇郡松川村西原 3358-24 ●開館時間：10:00～17:00 ●休館日：水曜日（祝休日は開館、翌平日休館）12月1日～2月末日まで冬期休館 ●入館料：大人900円、18歳以下・高校生以下無料

★画像データのご提供、読者・視聴者向けプレゼント（招待券）のご用意もあります。